

令和 7 年度

事業計画書

社会福祉法人 清光園

1. 法人運営
2. 特別養護老人ホーム清光園（短期入所含む）
3. グループホームまどか
4. デイサービスセンターすずらん
5. シルバー共同住宅陽光
6. 清光園居宅介護支援事業所
7. Lien Village なんそら
8. 施設管理

法人運営

はじめに

令和7年度、社会福祉法人清光園は法人設立50周年という大きな節目の年を迎えます。これまでの歩みを支えてくださった地域の皆様、関係者の方々に深く感謝申し上げます。

しかしながら、夕張市を取り巻く社会情勢は依然として厳しく、少子高齢化や地域経済の課題は年々深刻さを増しています。そのような状況だからこそ、私たちはこれまで支えていただいた夕張市への感謝を胸に、地域の未来のために今できることを精一杯取り組んでいく決意です。

本年度のテーマを「発信から発進へ～つながり広がる未来づくり」と決めました。私たちが培ってきた経験や知識を積極的に発信し、新たなつながりを生み出しながら、地域に貢献できる活動を広げていきます。子どもたちが安心して暮らし、夢を描けるまちをつくるために、私たちは挑戦し続けます。

50年の歴史を礎に、次の未来へ向けて歩みを進める清光園の新たな一步に、皆様のご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. 基本理念

最善の高齢者介護とは、管理の行き届いた施設で、事故なく安全にただ漠然と日々を過ごすことではない。

障害や病気によって多少の不自由や不安があったとしても、高齢者自身がそれなりに満足した日々を過ごせるよう支援していくことである。

つまり、生かされる支援ではなく生きていくことの支援なのである。

私たちは常にこの視点に立ち適切なサービスに努めていく。

2. 職場宣言

- 一. 私は、福祉職員として誇りを持ち、職場での役割を常に自覚し、知識と技術の向上に努めます。
- 一. 私は、利用者を尊重し、一人ひとりのニーズにそったサービスに努めます。
- 一. 私は、笑みとやさしさを常に絶やさず、明るい職場づくりに努めます。
- 一. 私は、自己本位でなく、協調性をもって、適切なサービスに努めます。

3. アクションプラン

【50周年記念特別テーマ】

「発信から発進へ---つながり広がる未来づくり」

1 よりよい介護の実現

「安心・安全・快適な暮らしを支える」

- (1) 身体を無理に拘束することなく、尊厳を傷つける対応を一切行わない。
- (2) 多職種が協力し、生活リズムシートの活用とアセスメントの充実を図ることで、質の高い支援を提供する。
- (3) 法律・制度・加算に関する知識の習得と理解を深め、適切な運営を行う。

「QOL向上を目指し、看取り・認知症ケアの満足度を高める」

- (1) 生活リハビリの一環として、より多くの利用者が車いすから食卓椅子へ移乗できるよう支援する。
- (2) 1階での機能訓練を充実させるとともに、各ユニットにおける機能訓練メニューを強化する。
- (3) 嘱託医や家族と連携し、安心して過ごせる看取りケアの提供に努める。

2 心に寄り添う食の探求

「誰もが楽しみ、美味しいと感じる食事を提供する」

- (1) 四季に応じたメニューや、利用者にとって特別なイベント食を提供する。
- (2) 個人の嗜好や食事制限を考慮し、多職種連携のもと、美味しく食べられる工夫を追求する。
- (3) 噛むことや飲み込むことが難しい方に向け、見た目も楽しく美味しい「ソフト食」の開発に取り組む。
- (4) ユニットごとの食材量を適切に管理し、フードロスの削減に努める。

3 誰もが成長し、安心して働ける職場づくり

「誰もが笑顔で働くことができる信頼ある組織をつくる」

- (1) 必要な知識や技術を磨き、自信と誇りを持てるよう指導・教育を強化する。
- (2) すべての新入職員に対し、OJTを活用した研修を実施し、安心して成長できる環境を整える。

「生産性向上を目指し、業務の効率化に積極的に取り組む」

- (1) 保存データの一元管理を行い、誰もが容易にアクセスできる仕組みを構築

する。

- (2) 人事労務管理システムや給与・経理システムなどのＩＣＴ化を推進し、既存の機能を最大限に活用するための仕組みを整える。

「職員がキャリアアップし、夢を実現できる職場をつくる」

- (1) 資格取得試験に向けた勉強会を開催し、合格率の向上を図るとともに、キャリアに応じた評価制度を導入し、やりがいにつながる環境を整える。
- (2) 雇用継続制度を積極的に導入し、シニア世代が働きやすい職場を実現する。

「多様性を尊重し、誰もが安心して楽しく働ける職場を目指す」

- (1) 外国人、障がいのある方、LGBTQ+の方を含め、多様な人材が働きやすい環境を整える。
- (2) SNS（Facebook・Instagram）やホームページを活用し、職場の雰囲気や仕事の魅力を積極的に発信する。

4 環境と働きやすさを両立

「エネルギーを大切に使い、仕事と環境への配慮を両立する」

- (1) 職員同士が声をかけ合い、節電・節水の意識を高め、節約を習慣化する。
- (2) ICT・介護ロボットの導入に向け、補助金の活用を計画的に進めることで、補助金情報と年次計画の整合性を高め、効果的な導入を実現する。

5 未来へつなげ、地域を支える

「地域とつながり、地域を守り、地域をけん引する施設を目指す」

- (1) 四季折々のレクリエーションやイベントを積極的に開催し、地域との交流を深める。
- (2) 持続可能な地域づくりを目指し、雇用創出や地域経済の活性化に貢献し、次世代へとつながる地域づくりに寄与する。
- (3) 地元の小学生・中学生・高校生を対象に、職業体験を積極的に受け入れるとともに、福祉に関する出張講習を実施し、介護の仕事への関心を高める機会を提供する。

「防災対策を強化し、地域の安全を守る」

- (1) 災害時に施設での食事提供を継続するため、キッチンカーを導入し、地域住民への炊き出しを実施する。
- (2) 要請があれば被災地へ赴き、食事支援を実施できる体制を構築する。

4. 年間計画

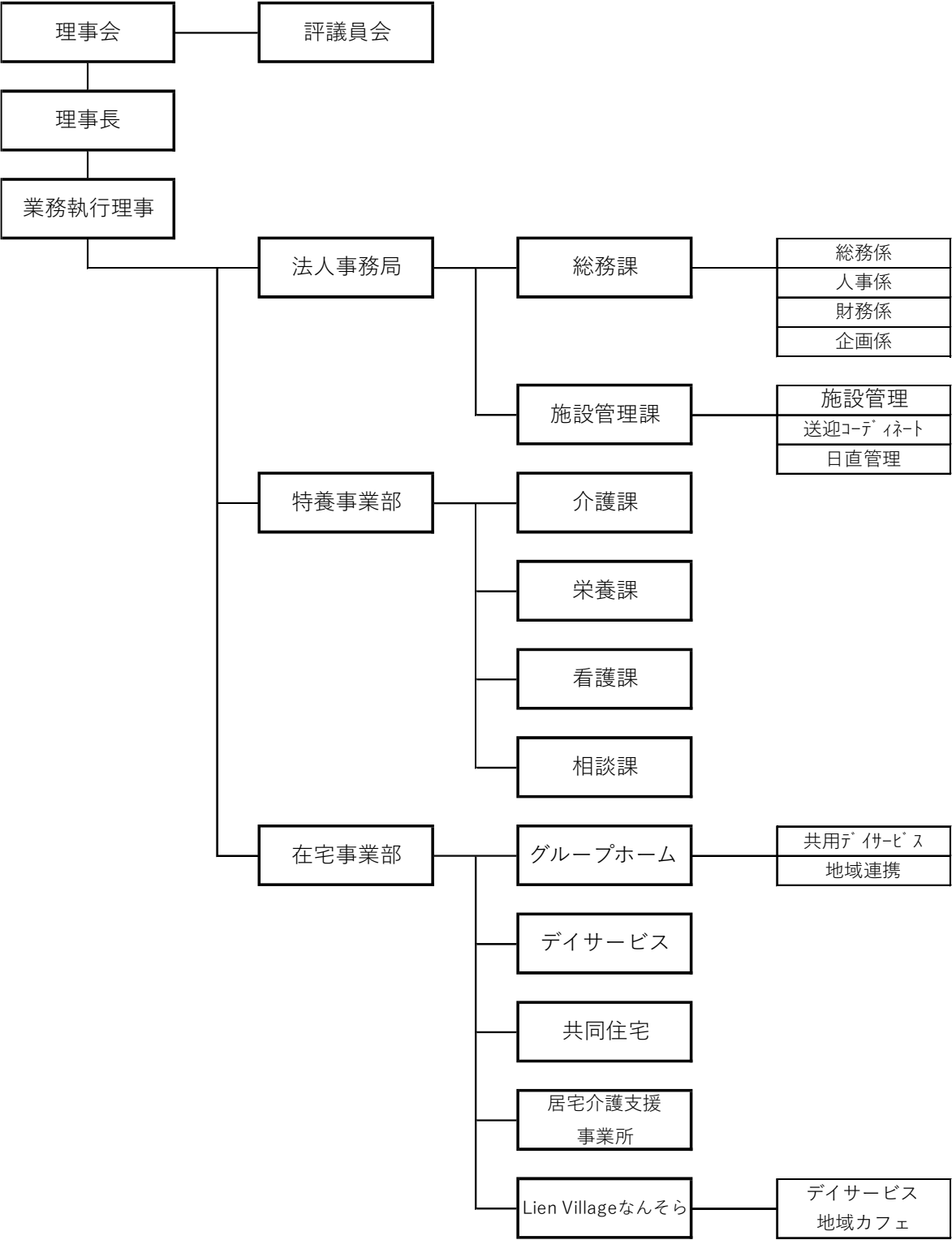
役員会等の定期開催

月	監事監査	理事会	評議員会
4月			
5月	決算監査		
6月		決算理事会 ・事業報告 ・決算	定時評議員会 ・事業報告 ・決算
7月			
8月	第一半期監査	第一四半期事業報告	
9月			
10月			
11月	上半期監査	上半期事業報告	
12月			
1月			
2月	第3四半期監査	第3四半期事業報告 ・事業計画・収支予算	
3月			

5. 組織図

社会福祉法人清光園 組織図

2025年4月1日改正



特別養護老人ホーム清光園（短期入所含む）

【重点目標】

「知ることから始める」

- 1 入居者、家族から満足度アンケートを実施し、質の向上に努める。
- 2 毎月の個人面談を通じて、職員の思いや働きやすい環境の構築と職員の 成長に繋げることを目指す。

【アクションプラン】

1 よりよい介護の実現

- (1) 入居者・御家族からの満足度アンケートを実施する。
- (2) しっかりとアセスメントを行い、生活リズムシートを本人の状況に応じて定期的に見直し、多職種が連携し情報共有を図ることで、一層個別ケアを充実させる。
- (3) 積極的に勉強会に参加し、ユニットケアについての理解を深める努力をし、質の向上に努める。
- (4) 食事をする時は食卓イスに座るという意味を全職員に浸透させる。
- (5) 1階での機能訓練を充実させ、個別訓練では専門職と連携し、適切なメニューを提案・継続することで機能向上を目指す。
- (6) 看取りケアの充実を図るため、もっとその人の最期に寄り添いながら、何ができるかを考え行動する。また、遠方で来ることができない家族に対しモニターを活用した看取りを実践する。

2 心に寄り添う食の探求

- (1) 入居者が参加して給食員会を開催し入居者の声を聞き、より良い給食サービスを提供するための意見交換を行います。
- (2) 毎月、地域交流センターを活用したユニット・グループ単位での食事企画を実施（例：まさくんの日、茶話会、誕生会など）。
- (3) 誕生日の方に招待状を出して特別感を演出。調理師手作りのお菓子などを提供する。
- (4) 担当者会議のほか、必要に応じ多職種が参加した個別のカンファレンスを実施する。
- (5) 減塩や濃いめの味付けを好む方など個別の嗜好に対応する。
- (6) 自社で作成するソフト食技術の習得にチャレンジしソフト食のレパートリーを増やす。
- (7) 食事に対するコメントを入力できる仕組みをつくる。

- (8) 各メニューの食べ残し率をデータ化し、献立作成や食材発注量の適正化に努める。

3 誰もが成長し、安心して働ける職場づくり

- (1) 必要な知識や技術を習得できるよう介護技術の研修を強化していく。
- (2) すべての新人職員に対し職員育成専属の職員のもとで基本的な知識、技術を学び成長に繋げていく。
- (3) 資格取得に向けた勉強会の開催。
- (4) 職員が新しい事に挑戦し、能力を発揮できる場を作る。
- (5) SNS (Facebook・Instagram・X旧ツイッター) やホームページを活用し、職場の雰囲気や仕事の魅力を積極的に発信する。

4 環境と働きやすさを両立

- (1) 職員同士が声をかけ合い、節電・節水の意識を高め、節約を習慣化する。
- (2) 職員の負担軽減のため補助金を活用してユニットの個浴にリフト付シャワーキャリーを導入する。
- (3) 上司、部下など職員間のコミュニケーションを円滑にする。
- (4) 新規雇用の確保を行う事で一人当たりの負担を軽減し適切な人員配置を行う。

5 未来へつなげ、地域を支える

- (1) 地域で行われるイベントやボランティア活動に参加し、園内で行う行事の際には地域の方にも声をかけ積極的な交流を深める。
- (2) 地域の子供たちに対して将来介護の担い手となるよう介護への理解を深め、実際に高齢者と交流できる場をもうける。
- (3) 自由に買い物に行けない地域の方に向けてと、入居者の楽しみの一環として衣類や食品の訪問販売の実施をする。
- (4) 町内会のゴミ拾いを第2水曜日の日に行い地域への貢献と地域との関わりを強化していく。

【年間行事・研修計画】

別紙参照

グループホームまどか

【重点目標】

1 年間稼働目標の達成

地域や他の施設、居宅との連携を強化し、グループホームまどかの年間稼働目標を96%に、共用デイサービスの目標を75%に設定します。

2 地域とのつながりを大切にした運営

地域との関係を大切にし、継続的に交流を行い、地域との絆を深めながら施設運営を進めます。

3 入居者様の生活を支えるケア

入居者様一人ひとりの生活を支え、生活の継続を重視したケアを提供します。

4 スタッフのスキル向上と働きやすい職場づくり

スタッフの認知症や介護に関する知識・技術を向上させ、年齢を重ねても働き続けやすい職場環境を整えます。

【アクションプラン】

1 よりよい介護の実現

(1) 拘束しない支援。

入居者様の自由を尊重し、身体的・心理的な拘束を行わず、入居者様が自立した生活を送れるように支援します。

(2) 多職種の協力。

介護士、訪問看護、リハビリスタッフなどが協力し、チーム一丸となって入居者様をサポートします。

(3) 安心して過ごせる看取りケアの提供。

①嘱託医や家族との連携。

協力医療機関や家族と密に連携し、入居者様が安心して過ごせるよう支援します。

②看取りケア。

最期の時を迎える際も、入居者様ができるだけ快適で尊厳を持って過ごせるように配慮したケアを提供します。

③ケアプランの調整。

必要に応じて医師と相談し、痛みや不安を軽減するケアを提供します。

また、ご家族と連携し、入居者様の希望に沿った支援を行います。

2 心に寄り添う食の探求

(1) 入居者様に合わせた食事提供。

入居者様一人ひとりの好みや健康に合わせた食事を提供し、食事の時間が楽しみになるよう工夫します。

(2) 季節の食材を活用。

季節の食材を使い、見た目にも美味しさを感じてもらえる料理を心がけます。

(3) 入居者様の意見を反映。

入居者様の意見を反映させたメニューを作成し、より良い食事を提供します。

(4) 特別な日の料理等の提供。

特別な日には入居者様からのリクエストにできる限りお答えし特別感を演出します。

(5) スタッフの協力。

スタッフ全員で協力し、入居者様が美味しく楽しい食事を楽しめるようサポートします。

(6) 健康的な生活のサポート。

美味しい食事を通じて、入居者様の健康的な生活をサポートします。

3 誰もが成長し、安心して働ける職場づくり

(1) ワークライフバランスの推進（年次有給化の取得促進、時間外労働の是正）。

(2) 学び続ける環境の提供（介護技術・認知症ケア・接遇マナー等）。

(3) スタッフ同士で日々の頑張りを認め合うことができる環境となる。

(4) いろいろな意見や考えを尊重し受け入れることができ、発想を形にできる体制作り。

4 環境と働きやすさを両立

(1) 職員同士が声をかけ合い、節電・節水の意識を高め、節約を習慣化する。

(2) 福祉用具の検討や介護技術研修を通じた身体的に負担のない介護動作の習得。

(3) 上下関係に関わらず、意見や想いを言いやすい職場づくり。

5 未来へつなげ、地域を支える

(1) 地域の貢献。

入居者様と地域とのつながりを大切にし、地域貢献活動や地域イベントに積極的に参加。

(2) 地域の子供たちに認知症を理解していただく活動の実施。

認知症サポーター講習や、触れ合える機会を通じ保育園、小学校、中学校、高校と世代間のつながりを深める。

(3) 認知症カフェの開催。

毎月第二土曜日に、すずらんを利用した「オレンジカフェ」を開催し、スタッフや入居者様と地域住民が交流できる場を提供。

(4) 町内会との防災に向けた取り組み。

備蓄の賞味期限に合わせ、町内会との非常食試食会の開催。非常食はローリングストックを心がけ、無駄なく備えもしもの時には町内会とスムーズな連携が図れる体制を作る。

【年間行事・研修計画】

- 4月 桜見学（28日～30日）
- 5月 子供神輿（10日～11日） 運営推進会議（28日）
- 6月 夕張小学校運動会見学（7日）
丘の上こども園運動会（21日）
- 7月 夕張高校学校祭見学（12日～13日）
運営推進会議（23日）
- 8月 夕張夏祭り見学（2日） 宮前町盆踊り参加（10日）
- 9月 敬老会（16日） 運営推進会議（24日）
- 10月 小学校・高校認知症サポーター講習（日程未定）
丘の上こども園年長14名ハロウィンにてまどか来訪（30日）
- 11月 運営推進会議（26日）
丘の上こども園お遊戯見学（未定）
- 12月 クリスマス・お正月
- 1月 お正月・初釜 運営推進会議（22日）
- 2月 ゆうばり寒太郎祭り参加
- 3月 運営推進会議（25日）

デイサービスセンターすずらん

【重点目標】

単に高齢者を支援する事業所ではなく、地域とのつながりを深め、地域と共に成長していく事業所を目指します。

【アクションプラン】

1 よりよい介護の実現

- (1) 多職種と連携し、利用者が望むような生活ができるように、アセスメントを充実し、通所介護計画書に反映する。
- (2) 利用者一人ひとりの価値観や個性を尊重し心のこもった対応を行う（丁寧な言葉使いと態度を身につけ安心感と信頼を与える）。
- (3) 法律・制度・加算に関する知識の取得と理解を深め、適切な運営を行う。

2 心に寄り添う食の探求

- (1) 利用者の食の好みや思い出の味を取り入れ、食べる楽しみの提供。
- (2) アレルギーや食事制限に対応し、安心して食べられる環境づくり。
- (3) 盛り付けにもこだわり、見た目から楽しめる食事を提供。
- (4) 食べる楽しみと作る楽しみの提供（利用者と一緒に菓子作り等）。

3 誰もが成長し、安心して働ける職場づくり

- (1) ワークライフバランスの推進（年次有給化の取得促進、時間外労働の是正）。
- (2) 学び続ける環境の提供（介護技術・認知症ケア・接遇マナー等）。
- (3) スタッフ同士で日々の頑張りを認め合う文化の醸成。
- (4) 多様な価値観を尊重する文化の醸成。

4 環境と働きやすさを両立

- (1) 職員同士が声をかけ合い、節電・節水の意識を高め、節約を習慣化する。
- (2) 福祉用具の検討や介護技術研修を通じた身体的に負担のない介護動作の習得。
- (3) 上下関係に関わらず、意見や想いを言いやすい職場づくり。

5 未来へつなげ、地域を支える

- (1) 保育園や小中高の教育機関と連携し、世代間交流。
- (2) 若い世代が福祉について知る機会の提供。

- (3) 地域の居場所として、気軽に来れるオレンジカフェの開催。
- (4) SNS等を活用し事業所だけではなく、地域の魅力を発信。

【年間行事・研修計画】

- ・ 節分
 - ・ ひな祭り
 - ・ 母の日
 - ・ 父の日
 - ・ 七夕
 - ・ ハロウィン
 - ・ クリスマス 等
-
- ・ 身体拘束、虐待防止研修
 - ・ 非常災害時対応研修
 - ・ 感染症対策に関する研修
 - ・ 介護技術、認知症ケアに関する研修

シルバー共同住宅陽光

【重点目標】

住み慣れた地域で、自分らしく暮らせる住まいを目指します。

【アクションプラン】

1 よりよい介護の実現

- (1) 入居者一人ひとりの価値観や個性を尊重し心のこもった対応を行う（丁寧な言葉使いと態度を身につけ安心感と信頼を与える）。
- (2) 認知症対応研修をスタッフに実施、認知症について理解を深める。
- (3) 万が一陽光での生活が困難な場合は、ワンストップサービスで自法人の施設への住み替えができるように努める。

2 心に寄り添う食の探求

- (1) 入居者の食の好みや思い出の味を取り入れ、食べる楽しみの提供。
- (2) 盛り付けにもこだわり、見た目から楽しめる食事を提供。
- (3) 誕生日・記念日には特別メニューを提供し、特別感を演出。
- (4) 季節ごとの行事食。

3 誰もが成長し、安心して働ける職場づくり

- (1) スタッフの意見を尊重し、職場改善のアイデアを積極的に取り入れる。
- (2) ワークライフバランスの推進（年次有給化の取得推進）。

4 環境と働きやすさを両立

- (1) 職員同士が声をかけ合い、節電・節水の意識を高め、節約を習慣化する。
- (2) 定期的なミーティングや意見交換の場を設け、風通しの良い職場を作る。

5 未来へつなげ、地域を支える

- (1) 地元の歴史や伝統文化を大切にし、入居者が関わる機会をつくり、次世代に継承する。
- (2) 地域のお祭りやイベントに参加し、高齢者の社会参加を促進する。

【年間行事・研修計画】

- ・ 節分
- ・ ひな祭り

- ・ 母の日
 - ・ 父の日
 - ・ 七夕
 - ・ ハロウィン
 - ・ クリスマス
 - ・ 入居者誕生日の食事会 等
-
- ・ 認知症ケアに関する研修

清光園居宅介護支援事業所

【重点目標】

早期相談から対応し、地域から頼られる事業所を目指す。

【アクションプラン】

1 よりよい介護の実現

- (1) 法律・制度・加算に関する知識の習得と理解を深め、適切な運営を行う。
特定事業所加算Ⅱの維持。
- (2) 入所・入院時の情報提供や退院時カンファレンスの参加を漏れなく行い、
病院・施設からの信頼関係を得、新規ケース獲得していく。
- (3) 地域包括支援センター、医療機関、サービス事業所との連携強化。
- (4) 法人の強みをアピールする。

清光園のケアマネジャーが担当することで、法人内のデイサービス（すずらん、なんそら）やショートステイを交えて緊急・柔軟に対応が可能であることをPRし、利用者の状況に応じてグループホームや特養、共同住宅との連携もスムーズに行えることをアピールする。

2 心に寄り添う食の探求

口腔内に課題がないかアセスメントを行い、必要時には歯科受診に同行し、
歯科医師と情報連携する。

3 誰もが成長し、安心して働ける職場づくり

- (1) 介護支援専門員各々の目標を策定し、個々の目標に応じた研修への参加を行う。
- (2) 介護支援専門員の質的向上を図る取り組みとして、ヤングケアラーや障害者、生活困窮者、難病患者等、高齢者以外の支援に関する知識を高めるため、外部機関の実施する研修（Zoom研修含む）を活用していく。研修内容については定例会議で随時共有する。

4 環境と働きやすさを両立

- (1) ワークライフバランスの推進（年次有給化の取得促進、時間外労働の是正）。
- (2) 在宅ワーク環境の整備や業務のICT化の促進について検討する。
- (3) 職員離職防止に向けた取り組みとして、週1回の定例会議時に職員が一人で問題を抱え込み悩まないようスタッフ一同で共有、一緒に考え、負担をため

込まないよう取り組む。また、清光園の従業員が、介護などの問題を抱えた際に快適な職場環境のもと仕事が続けられるよう、専門的な立場で相談の窓口になります。

5 未来へつなげ、地域を支える

- (1) ケースを通じて地域の課題やニーズを発掘し、法人全体で解決策を考え、地域包括支援センターや行政機関に必要な提言をしていくことで地域づくりの一翼を担っていく。
- (2) 多様な主体等が提供する生活支援のサービス（インフォーマルサービスを含む）が包括的に提供されるよう居宅サービス計画を作成いたします。
- (3) 生活上の些細な事柄、施設への入所相談、介護保険請求に至らない事例においても真摯に対応し、地域から頼れる事業所を目指します。

【年間行事・研修計画】

- ・高齢者虐待防止推進研修会
- ・認知症研修
- ・ヤングケアラー支援研修
- ・感染症及びまん延の防止のための研修

【重点目標】

地域で安心して暮らし続けられるよう、質の高い介護と心地よい交流の場を提供し、地域全体の支えあいの輪を広げる。

【アクションプラン】

1 よりよい介護の実現

- (1) 利用者中心のケアの強化を行うため、生活背景や個別のニーズを尊重したケアを実践し、個別の希望に沿ったサービス提供と通所介護計画の定期的な見直しを行う。
- (2) 一人ひとりの趣味や興味に合わせてリラクゼーションルームやミニシアター、アミューズメントレーニングなど、心の健康を促進する環境を提供する。
- (3) 利用者様と家族様とのコミュニケーションを促進し信頼関係を早期に築き、安心した生活を支援する。

2 心に寄り添う食の探求

- (1) 旬の食材や地元産の食材、メニューに季節感を積極的に取り入れた食事の提供。
- (2) 個々の嗜好に応じて選択できるメニューを用意し食事の楽しみの増加と健康をサポートする。
- (3) 地域カフェの雰囲気を活かし、ゆったりとした時間で食事が楽しみとなるような空間づくりを行う。
- (4) 利用者様同士やカフェのお客様がコミュニケーションを取りやすい環境を作り、食事を通じた交流の場を創出する。

3 誰もが成長し、安心して働ける職場づくり

- (1) 定期的なミーティングなど、職員同士のコミュニケーションを深め、個別の意見、悩みを相談しやすい環境を整える。
- (2) 介護技術の研修や必要な知識を身につける機会を作り、自身の強みを生かせる技術の向上とスキルアップできる資格の取得を支援する。

4 環境と働きやすさを両立

- (1) 有給休暇の取得を推奨し、シフトの柔軟な調整を行う。
- (2) スタッフの健康維持に配慮し、家庭事情に配慮した勤務体制を整え、仕事とプライベートを両立し健康的に働ける環境を整える。

5 未来へつなげ、地域を支える

- (1) カフェ利用者の介護相談、ケアラー支援を行い地域で支えあう仕組みを作る。
- (2) 地域住民が参加できる交流イベントや土日祝日の貸館制度を導入し、地域活動の拠点としてコミュニティの活性化を促進する。

【年間行事】

- | | |
|-----|------------------|
| 7月 | ビアガーデン |
| 8月 | 七夕祭り |
| 9月 | 敬老祭、栗山天満宮例大祭 |
| 10月 | 紅葉狩り、散策（滝の上公園） |
| 11月 | 芸術祭見学 |
| 12月 | クリスマス会、もちつき |
| 1月 | 新春書き初め、初詣（栗山天満宮） |
| 2月 | 節分 |
| 3月 | ひな祭り |

【研修計画】

[illegible]

Lien Village なんそら 【地域カフェ】

【重点目標】

- 1 地域の人々が気軽に集い、世代を超えたつながりを深められる場をつくる。
- 2 新たな地域の活動が生まれ、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進する。

【アクションプラン】

1 よりよい介護の実現

- (1) デイサービスの様子を見学できる開放的で温もりのある空間を提供する。
- (2) 介護相談ができる場を設け、地域住民が気軽に相談できる環境を整備する。

2 心に寄り添う食の探求

- (1) 地元食材を生かした高齢者にも優しい日替わり定食を低料金で提供し、誰もが安心して食事を楽しめる環境をつくる。
- (2) デイサービス利用者と地域住民が食事場所を共にすることで、交流や絆を深めることを目指す。
- (3) 売店では、地域の特産品や加工品を販売し地域の魅力を発信する。

3 誰もが成長し、安心して働ける職場づくり

- (1) お客様が心地よく感じる接遇・調理スキルの向上を目指した研修を実施。
- (2) 介護学生がボランティアとして活躍し学べる仕組みを整える。

4 環境と働きやすさを両立

- (1) 働きやすい厨房環境を整え、安全で快適な職場づくり。
- (2) 食材の適正な仕入れ管理、無駄を削減。嗜好調査によるメニュー調整、残った食材を活用できるレシピを考案し廃棄物を削減する。

5 未来へつなげ、地域を支える

- (1) 地域が主体となって企画するイベントや祭りに出店し世代を超えた交流を促進。
- (2) デイサービスとの連携を強化し、地域全体の福祉向上を目指す。
- (3) 地域のリクエストに応じたメニューや売店の商品を提供し、来客者の利便性を高める。

【年間行事】

期間限定のグルメフェアを開催。

春：ラーメンご当地フェア

夏：納涼スイーツフェア

秋：B級グルメフェア

冬：あったかグルメフェア

【研修計画】

5月 オープン前研修

調理技術、衛生管理、オペレーション、接客・接遇

10月 リピーターを生む接客教育

実践型研修

食品メーカー、卸業者によるメニュー提案、試食会

スタッフミーティング（月1回）

接客の改善点、売れ筋メニューの分析、メニュー考案

施設管理部門

【重点目標】

清光園の施設管理部門として、利用者・職員が安心・快適に過ごせる環境づくりを進めながら、持続可能な地域づくりに貢献します。

1 安全・快適な施設環境の整備 「安心して過ごせる住環境の提供」

(1) 設備・建物の安全点検強化。

- ①毎月1回の施設安全点検を実施し、修繕・改善が必要な箇所をリスト化する。
- ②施設内の老朽化箇所を優先順位付けし、計画的な改修を進める。

2 ICT・設備の最適化 「業務の効率化と働きやすい環境づくり」

(1) ICTシステムの導入と活用。

施設管理データを一元管理できるシステムを導入し、修繕履歴をデジタル化。

(2) 新技術を活用した業務改善。

- ①介護ロボットの活用を試験導入し、職員の作業負担軽減を目指す。
- ②自動清掃ロボットを導入し、清掃業務の効率化を実現。

(3) セキュリティ強化。

- ①スマートロックシステムを導入し、施設の入退管理を最適化。
- ②防災用の備蓄管理をデジタル化し、在庫切れや更新の漏れを防ぐ。

(4) 送迎マネジメントシステムの構築。

- ①送迎業務の効率化と一元管理、利用者の安全性向上。
- ②運行コスト削減と持続可能な運営。
- ③配車・運行管理のデジタル化。

(5) 夜間の業務効率化。

- ①特養の夜警員業務の廃止と業務分担。
～巡回計画再編成、頻度と範囲の調整。
- ②夜間の施錠、防犯対策の徹底～施設全体の安全性確保。
- ③緊急時対応の職員間連携の強化

3 防災・危機管理の強化 「万が一に備え、迅速な対応を可能にする」

(1) BCP（事業継続計画）の具体的な策定と運用。

災害・危機発生時に、事業やサービスを早期復旧し、被害を最小限に抑える。

(2) 防災訓練の強化。

- ①災害時の避難マニュアルを改訂し、職員・利用者の防災訓練を定期的に実施する。

- ②夜間勤務者向けの緊急対応マニュアルを作成し、実践的な訓練を実施。
- (3) 非常用設備・備蓄の充実。
- 防災備蓄品の種類・量を見直し、賞味期限管理を徹底。
- (4) 地域との防災連携。
- キッチンカー導入に伴い、災害時の炊き出し支援の訓練を実施。

【年間 法定検査・保守点検 計画】

		関係法令	特養	すずらん/陽光	まどか	なんそら	公宅
4月	エレベーター法定検査（年1回）	建築基準法	○				
	貯水槽清掃/水質検査（1回/年）	水道法	○				
	貯湯槽清掃/水質検査（1回/2年）	水道法	○				
	消防設備点検（1回/年）					○	
5月	※LV なんそら地域カフェ保健所	食品衛生法					
	※LV なんそらデイサービス（道）	介護保険法					
7月	消防立入検査（1回/年）	消防法	○	○	○	○	
8月	自動ドア保守点検（1回/年）	建築保全	○				
9月	特殊建築物定期調査（1回/3年）	建築基準法	○		○		
	地下貯蔵タンク漏洩検査（1回/3年）	消防法	○		○		
	消防設備点検（1回/年）	消防法	○	○	○	○	
	簡易専用水道検査（1回/年）	水道法	○				
10月	浄化槽法第11条検査（1回/年）	浄化槽法	○	○	○		○
11月	煤煙測定検査/ボイラー設備整備	大気汚染防止法	○				
2月	消防設備点検	消防法				○	
	自動ドア保守点検	建築保全	○				
3月	消防設備点検	消防法	○	○	○		
定期	浄化槽検査	浄化槽法	2回/月	1回/3ヵ月	1回/3ヵ月	—	1回/4ヵ月
	電気工作物検査	電気事業法	1回/2ヵ月	—	—	—	—
	エレベーター定期検査	建築基準法	1回/3ヵ月				

【年間設備整備計画】

		事業所	内 容	概算費用
①	エレベーター消耗部品交換	特養	経年劣化部品交換	250万円
②	浄化槽整備	特養	経年劣化～ばっ気プロポンプ 交換	40万円
③	自動ドア消耗部品交換	特養	経年劣化部品交換	調査中
④	業務用全自動洗濯機更新	特養	平成17年整備業務用洗濯機老朽による更新計画	調査中